



杏林大学外国語学部教授 金田一 秀穂

撮影 / タカオカ邦彦

我が家には体重40キロを超す巨大なメス犬がいます。性質は至っておとなしく、人見知りしません。仮にハナコとします。あるとき娘とハナコの散歩に出かけました。

力が強いので、私がひもを持っていました。ゆっくりと歩くのですが、犬のことですから、彼女の好きな方向へ行こうとします。違う方へ行こうとするときは強く引っ張ります。他の犬がいるときは、用心して強めに抑えます。子どもが好きで寄っていきこうとするので、ひもを短めに持ち直します。そのようにしていたら、娘が、ハナコがかわいそうだと言うのです。「もっと話してやってよ。私に代わって」と言うので、ハナコを娘に任せました。娘は私と代わると、ひっきりなしに犬に話しかけるのでした。「あっち行っちゃだめだよー。おともだちだねー。でもこっちにしようねー。あの子は小っちゃいから、行くと驚いちゃうから、ここにしようねー。ハナちゃん、いい子だねー…」

ハナコは「ハナちゃん」と言われても、自分のことだとは分からないに違いない、そもそも日本語が分かると思えない、というか、言語というものを理解できないのではなかろうか、ということを経験に言ったのですが、娘は不満そうで、私とは話をしないくせに、犬とはおしゃべりをやめようとしませんでした。

ヒトが話す言葉は母音と子音の組み合わせです。母音と子音で作られたいろいろな音を組み合わせることで、人の言葉は出来ています。私たちが日本語や英語を理解するのは、その組み合わせを聞き分けられるからです。組み合わせの規則を守ることで、他の人に自分の気持ちを伝えられます。

この言葉話すときに、声を使うのですが、その声の調子で、犬はヒトの言いつけや気持ちのある程度理解するようになります。うちの犬は賢くて人の言うことがみんなわかるという人がいます。その場

合、犬はたぶん言葉ではなく、飼い主の声の出しかたや表情、しぐさなどを観察して、次の行動を察しているのです。ただし犬が出来るのはそこまでです。母音と子音のさまざまな組み合わせを聞き分けて、その違いを知り、その組み合わせそれぞれが担う意味を理解できているとは、到底思えません。犬に話しかけるのは、ほとんどが独り言にすぎません。

しかし、多くの方はそれをやめようとしません。ペットのトカゲや金魚に話しかける人がいます。爬虫類や魚類に言語を理解する知力があるとは思えません。なかにはお気に入りのぬいぐるみに話しかける大人もいるようです。なぜあの人たちは、それを別に滑稽なことだとも思わずに、無駄な話しかけをやめようとししないのでしょうか。これは実は、人間にとって非常に重要な生得的な性質に基づいているからだという説があります。

ヒトは2歳を過ぎると言葉を話し始めます。外国語は何年やっても上達しない人が、たった2歳か3歳の知力しかなくても、母親の話す言葉と同じ言葉を獲得していきます。この奇跡を説明するのが、このムダな話しかけだと言われています。お母さんは生まれた赤ちゃんに、一生懸命話しかけます。相手が分かろうと分かるまいが、自分の言いたいことを一生懸命話しかける。自分がその時一番言いたいこと、すなわち気持ちのこもった言葉を、赤ちゃんに話しかけます。言葉の全くわからない新生児の心にもいつの間にか伝わっていきます。赤ちゃんはお母さんのそのような言葉を吸い取っていくのです。

私たちが今言葉を使えるのは、あの頃の母親たちのムダなおしゃべりがあったからなのです。

だから娘が犬とおしゃべりして、父親とおしゃべりしてくれなくても文句を言うてはいけません。娘は子どもが出来た時の大切な準備をしているのです。父親とおしゃべりすることの方が、無駄なことなのかもしれません。

幼児教育振興法（仮称）、政令指定都市 特別委員会などを協議

6月5日、東京・グランドヒル市ヶ谷において、全日私幼連臨時理事会が開催され、51名（定足数は59人）が出席しました。

北條泰雅副会長による開会の言葉と香川敬会長からの挨拶の後、議長に濱名浩理事（兵庫）と渡辺力理事（長崎）が選出され、議事録署名人には谷口偉理事（奈良）と志内正一理事（徳島）が選任され、議事に入りました。

■審議案件 1：国政対応の件

香川会長より同日行われた常任理事会に引き続き、来年度の参議院選挙において山谷えり子参議院議員を全日私幼連より推薦する旨の説明があり、審議の結果、満場一致により承認されました。

■審議案件 2：専務理事選任の件

田中辰実総務委員長より、小林弘明専務理事退任の報告がありました。小林専務理事からの退任の挨拶の後、後任の鈴木良一専務理事の紹介がありました。審議の結果、満場一致で議決され承認されました。

■協議案件 1：幼児教育振興法（仮称）の件

同日行われた常任理事会に引き続き、田中雅道副会長より資料をもとに説明があり、今後の課題を踏まえ、内容について意見交換が行われました。

■報告案件 1：政令指定都市特別委員会について

尾上正史副会長より資料をもとに説明があり、委員の構成員案について説明が行われました。近畿地区と、東北地区からそれぞれ委員を選出する報告がありました。

■報告案件 2：全日私幼連 PTA 連合会の分担金に



ついて

同日行われた常任理事会に引き続き、坪井久也政策委員長より、平成 27 年度の分担金の改定は行わない旨の報告がありました。

■報告案件 3：会務運営報告について

各委員会委員長、プロジェクト座長から会務運営報告がありました。

最後に田中総務委員長より、7月3日に行われる全日私幼連 PTA 委員総会、また7月13日に行われる PTA 全国大会についての報告がありました。

尾上副会長の閉会のあいさつの後、本臨時理事会は終了いたしました。

（調査広報委員長・四ツ金雅彦）

国政対応、幼児教育振興法（仮称） について協議

6月5日、東京・グランドヒル市ヶ谷において、全日私幼連の常任理事会が開催され、26人（定足数33人）が出席しました。

香川敬会長のあいさつの後、議長に村山十五副会長、議事録署名人に原徳明常任理事と園尾憲一常任理事が選任され、議事に入りました。

■審議案件1：国政対応の件

香川会長より来年の参議院選挙において全日本私立幼稚園連合会より山谷えり子参議院議員を推薦する旨の説明があり、審議の結果、満場一致により承認されました。

■協議案件1：幼児教育振興法（仮称）の件

田中雅道副会長より資料をもとに説明があり、今後の課題を踏まえ、内容について意見交換が行われました。

■報告案件1：政令指定都市特別委員会について

尾上正史副会長より資料をもとに説明があり、発足に向けての委員の構成案について説明が行われました。

■報告案件2：全日本私立幼稚園PTA連合会の分担金について

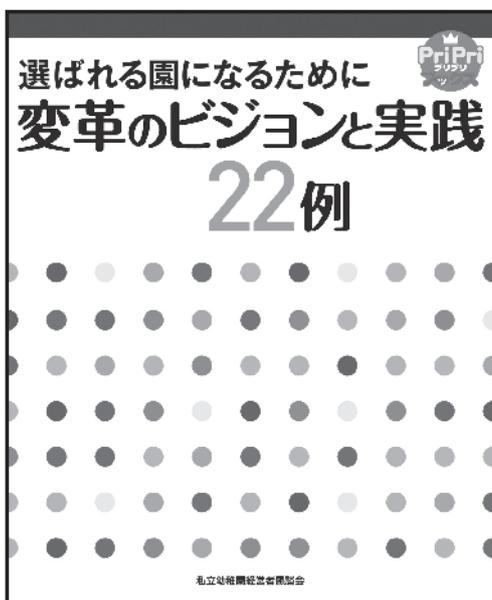
坪井久也政策委員長より、平成27年度の分担金の改定は行わない旨の報告がありました。

■その他

田中辰実総務委員長より専務理事退任の報告があり、小林弘明専務理事より退任の挨拶がありました。

最後に議長の村山副会長の閉会の言葉で終了しました。

（総務委員長・田中辰実）



こども園への移行？ 0・1・2歳児保育を導入？ 保育の質の向上は？

選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

保育施設の未来がこの本に！

保育施設の“機能と質”を考える。
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇話会・著
248ページ／税込4,320円
世界文化社刊／4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部
TEL：03-3262-5128 FAX:03-3262-6121

認定こども園「教育・保育 質の向上」 全国研修会開催

6月29日、東京・グランドヒル市ヶ谷において、「認定こども園『教育・保育 質の向上』全国研修会～『幼稚園ならではの』の認定こども園を目指して～」の研修会が開かれました。この研修会は内閣府・文部科学省・厚生労働省の後援を得て開催され、全国から約450人の先生方が参加しました。開会式の後、研修に入りました。

会議の概要は下記になります。

研修①演題：「認定こども園委員会 全国アンケート結果報告・移行に役立つ情報」

全日私幼連認定こども園委員長 森迫 建博氏

研修②演題：「子ども・子育て支援新制度における公定価格等について」

文部科学省初等中等局幼児教育課幼児教育企画官 林 俊宏氏

研修③演題：「認定こども園の労務管理」

社会保険労務士法人ゆびすい労務センター特定社会保険労務士 平 幸次氏

研修④【事例発表】：『幼稚園ならではの』の認定こども園の質向上



コーディネーター 森迫 建博氏

発表者 認定こども園せんりひじり幼稚園・ひじりにじいろ保育園 安達 譲氏
認定こども園阿久根めぐみこども園 輿水 基氏

なお、詳しい研修会の内容については次号に報告記事を掲載いたします。



新刊

**アイデアいっぱい！
季節&行事の
製作あそび**

季節を感じて
作って楽しむ！

ポット編集部 編
定価1,944円(税込)
26×21cm/96ページ
発行・発売 チャイルド本社

こいのぼり製作をはじめ、七夕、いも掘り、作品展、クリスマスなど、幼稚園や保育園で欠かせない、季節と行事の楽しい製作のアイデアがいっぱい！
製作活動の目安となる年齢表示付きです。

平成27年度 事業計画・収支予算などを決議

東京・私学会館

7月3日、東京・私学会館において、全日本私立幼稚園P T A連合会の平成27年度委員総会が開催され、委員81人が出席しました。

河村建夫・全日私幼P連会長のあいさつに続いて、遠藤利明・全日私幼P連副会長、山本順三・全日私幼P連副会長からあいさつをいただきました。その後、香川敬・全日私幼連会長からあいさつをいただき、議長に岡澤邦幸・全日私幼P連副会長を選出し議事に入りました。

議事では、議題①役員改選の件 ②平成26年度事業報告・収支決算の件 ③会務監査報告の件 ④平成27年度事業計画案・収支予算案の件 ⑤P T A全国大会の件 ⑥平成28年度分担金の件について提案があり、満場一致で議決されました。

議題①役員改選の件では、会長に河村建夫氏（山口県）の再選が満場一致で議決されました。副会長には遠藤利明氏（山形県）、山本順三氏（愛媛県）、岡澤邦幸氏（北海道）、金重光江氏（埼玉県）、月本喜久氏（東京都）、山本宗五郎氏（滋賀県）、日高博



之氏（宮崎県）が選任され、満場一致で議決されました。また、監事に坂本洋氏（岩手）、宮地彌典氏（高知）が選任され満場一致で議決されました。

議題⑤P T A全国大会について、又議題⑥平成28年度分担金の件について坪井久也・全日私幼連政策委員長より説明がなされました。

金重光江・全日私幼P連副会長の閉会のあいさつがあり、本総会を終了しました。

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



らくらくメール

園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。



らくらくバスメール

スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。

**ぜ〜んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ

目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

★ 5・29 第 5 回評議員会

平成 27 年度 収支予算を決議

5月29日、(公財)全日私幼研究機構評議員会が、東京・私学会館で開催され、評議員12名が出席しました。定款第18条に基づき、議長に二井睦評議員を選任し、議事録署名人に永山芳和評議員、内橋彰評議員を選任し議事に入りました。

【決議案件】

1. 平成 26 年度収支決算の承認の件

坂本専務理事より、平成 26 年度収支決算について資料をもとに説明があり、定款第 8 条第 1 項第 3 号から第 6 号までの規定に基づき一同に諮ったところ、満場一致をもって決議されました。

【報告案件】

1. 平成 26 年度事業報告の件

田中理事長及び原副理事長より、平成 26 年度事業報告について資料をもとに説明がありました。

2. 賛助会員入会の件

田中理事長より、第 6 回理事会において新たな賛助会員として決議された、(株)ゼンリンデータコムの新規入会申し込みの説明がありました。



3. 公開保育コーディネーターの件

田中理事長より、平成 27 年度も引き続き公開保育コーディネーターを養成していきたい旨の報告がされました。

4. 第 6 回幼児教育実践学会の件

田中理事長より、8月18日(火)・19日(水)福島県・郡山市での開催に向けての準備を進めている旨の報告がされました。

((公財)全日私幼研究機構専務理事・坂本洋)

秋田喜代美先生の3部作

各巻B6上製判
定価:本体
1,200円(税別)

L66600

保育の心もち
秋田 喜代美

保育の心もち

保育に携わる姿勢・「心もち」をさまざまな視点からわかりやすく解説。すべての保育者のための日めくりカレンダーのような優しい本です。

L66900

保育のおもむき
秋田 喜代美

保育のおもむき

何気ない保育の場面や子どものようすから、筆者が心動かされたことや、環境を通して行なう教育としての日本の保育の良さ、それぞれの園がもたらす「おもむき」を味わえる。保育に携わるすべての人の心に響くコラム集です。

L65800

保育のみらい
秋田 喜代美

保育のみらい

保育制度改革の真の意味を問う書き下ろしを含む、いつもの保育にプラスになる珠玉のアンソロジー！ 保育の大切さが伝わる、読みやすくまとめられた日本教育新聞他の連載を中心に単行本化したものです。

ひかりのくに株式会社 本社 / 〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社 / 〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

公開保育コーディネーター養成講座開かれる

東京・砂防会館

6月19日、東京・千代田区の砂防会館において、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構主催の「公開保育コーディネーター養成講座」が開催されました。今回の養成講座では全国から62名の先生方が受講しました。

初めに、田中雅道(公財)全日私幼研究機構理事長の開会の挨拶があり、養成講座がはじまりました。午後に行われた事前講義では岡健大妻女子大学教授による講義とともにグループワークが行われました。

養成講座の概要は次の通りです。

○オリエンテーション

- ・趣旨説明
 - ・公開保育を活用した評価の流れの概要
- 研究研修委員長 安達 譲

○事前講義

- ・講師：大妻女子大学家政学部児童学科教授 岡健



○質疑応答

最後に、安達研究研修委員長よりあいさつがあり閉会となりました。

理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

園の未来をデザインする 保育ナビ

月刊保育雑誌

定価：本体価格926円+税
B5判 72ページ

8月号の主な内容

特集 新制度スタート 新制度時代に私たちが思うこと

- 国の動きを読む! 研究者の目2015
資質・能力を元に幼稚園教育要領及び
学習指導要領を改訂する
- 保育の質向上へのヒント―場・素材を考える―
「育てたい力」という視点から見る場と素材
- スピーチ実践術! Part2
実習生への挨拶/夏期保育期間 ほか

- ・人材育成の連載が充実!
- ・特集記事、連載記事の連動企画が
Webで読めます!
- 「保育ナビ」で検索!

※表紙・内容は変更の場合があります。



2015年度の表紙写真は倉橋想三の言葉に合わせて選んでいます。ぜひ本誌をご覧ください。

ISBN978-4-577-81378-2 748

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで
03-5395-6608 保育営業部

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>

キンダーブックの
フレール館

Johanna Elnarsdottir アイスランド大学学校教育学部学部長・教授／講演概要

教育の連続性 北欧諸国の視点から

■経験に基づいて行動する

アイスランドの子どもたちにとって、保育所から学校に移ることで、今まで過ごしてきたものと全く異なるものを経験することが明らかになったかと思っています。

まず一つ変わった点を挙げるとすれば、子どもたちは社会的な位置づけや立場・責任に対する意識が変わったと感じています。移行を通じて就学することにより子どもは責任を伴い、自分自身が今まで置かれていた立場が変わってしまう経験をします。保育の場では、最年長で敬意が払われていた立場が、小学校では最年少になるのも変わった部分の一つと考えられています。

また指導方法や学び方が主に変わる所であると子どもたちの経験から読み解けます。読み書きや数といった特定のことを学ぶことが増える。また、1年生への先生の指導方法もそれまでの保育者からの関わり方とは違うことに気づきます。例えばクラス全体で一つのことを学ぶ形や、休み時間しか遊ぶことを許されていない形式の違いも変わった点といえます。

もう一点民主的姿勢の部分になりますが、保育所の時には自分自身の意思、選択が認められていたのが、学校では影響力がないと子どもたちは感じています。保育の場では自分のしたい事をしていたのに、学校に入ると先生や教科書が非常に力を持っており、誰が学びや遊びの主体に置かれているかに違いを感じているようです。



最後に学びの定義を見てみます。学ぶことや教えることは、学校教育における伝統的な学習の教科や、フォーマルな様式と繋がっていると考えられています。子どもたち自身にとっては保育の場が、遊びや創造的な活動が学びに繋がるとは思っていなかったという所になっています。

子どもたちは1年生またはプレスクールに通う子どもと共に、友だちや保育者との関わりを懐かしくまた寂しく思い、もっと生活を充実させたいと思っているようです。遊びや、環境等を懐かしく思っている点が見えてきます。環境や遊びを懐かしいと思うのは1年生に聞いても同じでした。人間関係や、社会的繋がりを子どもたちは重要だと思っていて、一日中友達と好きなことをして遊ぶのが自分たちにとって、懐かしく大切なことであると子どもたちは捉えているようです。

また小学校に対して子どもたちが就学準備を整えていることや、就学にあたり何をしているかの流れ

も分かってきています。各学区で学校訪問や、小学校の建物に慣れ親しむ形で小学校について子どもたちが知っておく所も経験の中で変わってきます。

この様な事をまとめて考えると、デューイの話にも関わりますが、子どもたち自身が本来持っている経験に基づいて行動する、知らないことを突然始めるのではなく、知っている経験を繋げていくことが重要ではないかと思えます。もちろん新たな人間関係を作る大切さもありますが、人間関係によって支えられて育った幼児期と同様に人間関係の充実は、接続期においても大切だと考えます。特に就学した最初の数か月における支えをしっかりとすることが大切だと考えます。

■移行期における活動の重要性

ヨハンナ先生には2人のお孫さんがおり、この9月から小学校に上がります。2歳からそれぞれ違うプレスクールに通っていたため、異なった経験を2人はしています。最終年の保育の場では、一方の子のプレスクールでは、外遊びや、フィールドトリップなど色々な所に行き探究するプログラムを行い、もう一方のプレスクールでは言語やリテラシーに焦点を当てて学ぶプログラムを行っていました。アイスランドにおいては、申し上げているように保育に6つの柱が貫いていますが、各園によってどのようなプログラムを展開するかはそれぞれ異なっています。そういう違いを経験した上で小学校に上がる点は日本と非常に似ています。但し、すべての保育園で共通する所は、保育の最終年度で少なくとも2~3回自分が進学予定の小学校を訪問し、小学校に慣れ親しむ経験をする事が共通部分になります。

移行の実践をする際に共通して行われることがあります。まず、就学前に子どもたちが何度か小学校に足を運び、生徒が行う活動に子どもたちが参加する、そして就学前の子どもたちが保育においてどういった事がなされていたかの要録が小学校に送られる。

また、小学校の先生と子どもたちが小学校に上がる前に必ず会う場が設けられている。等が挙げられ

ます。これらが、移行においてアイスランドのどこでも見られる特徴となっています。

移行期における活動が大事であると考えた際に、その子どもたちが就学前に小学校の先生と会い、学校を訪れることは非常に良いとアイスランドでは考えられています。プレスクールの先生、保育者と小学校の先生が、接続とはどういった形で進められるかのミーティングを持つのは、そこも良いことだと考えられています。そしてもう一つは小学校における行事や活動に幼児期の子どもたちが参加したり、招待されること、そういった交流があることが非常に重要であると考えています。円滑に移行するために、幼児に小学校のことを伝えていく活動がほとんどの場所でなされている旨が報告されています。

もう一つ挙げられているのが、先ほどの6つの柱が貫いているのに加え、カリキュラムの中でどこを強調するかは保育所と小学校の場合は異なっていると思えます。そのような教育観を無理に摺り合わせようとする動きや決まった考えを共有しようという所を非常に強調している事もないですけど、移行期に携わっている先生方がそうすることが大切ではないかと考えています。制度と政策上でそこまで強調されていなくても、先生方からするとそうすることが好ましいという風に考えているのも分かってきた事です。

今お話しした点を考えると、移行や接続のイメージは二つの異なるもの間に橋をかけるというものになります。つまり小学校側が幼稚園や保育所側を招待して二つを繋げる、という子どもたちを小学校の方に巻き込み理解をしていく動きがみられると考えます。

移行期ですが、保育所と小学校との考え方の方法を繋げる事、そしてそれがどうあるものなのかの教育に対する考え方を統合するのが重要ではないかと今言われる所の一つになります。そして子どもと、カリキュラムが中心となって重視されるように、教育の主体・保育の主体が誰なのかを考えた時の民主主義的教育風土、デューイに代表されるような考え方ですけれども、そういった事を展開されることを提唱されていて、その中の一つとしてプロジェクト

アプローチのような考え方を提唱する研究者もいます。そして最後にはこれはデューイのいう経験にも繋がりますが、遊びをもっと広く捉えて、教師の役割を重視する遊び、遊びを主体としたカリキュラム等これらを小学校においても導入することを推奨する。という報告が出されています。

繋げるとはどういう事を考えると、異なるもの間に橋を架けるということですが、今の3点から見ると、交わる所というか、くっついている所を見ていくことになります。

■近年の研究

最近の研究でレイキャビック市とアイスランド大学で共同研究を行っています。移行期においてどのように先生同士が繋がるかのアクションリサーチを行っており、まず学校間での繋がりを作っていく事を目的としてこの研究を立ち上げました。

もう一つは現職教育の一環に加えてですが、アイスランド大学で授業を取るとクレジット（保証）がついてくるという所もあります。子どもにとっての教育とはどういうものか、遊びと学びが統合されるとはこういった教育が展開できるかを融合して焦点化してアクションリサーチを先生方と一緒にしています。

今行っている研究は2年間の研究になります。今の段階で分かっていることは、このアクションリサーチと一緒に先生方が参加したことで、先生方の指導力の能力の向上が見られた所と、実践に対する考え方に変化が起こり、なんらかの影響を及ぼしたという風に見えます。何を大事に思ったかや、実践とはどうあるべきかを考える際に、先ほど申した焦点化をした一つとして遊びと学びをどのように融合させていけるかを焦点化した研究と申しましたが、先生方は伝統的に遊びは遊び、勉強は勉強と分けて考えているという囚われからなかなか抜け出せないようです。

教育的変化は時間がかかり、長いプロセスを経る必要があると重々承知していますが、この2年間の研究でどのような部分がでてくるかを今見ていま



す。

プレスクールと小学校とが、橋の架かっていた所から二つをくっつけていく事は、それぞれが違うものであり、単に情報を与えたり与えあったりするだけの関係性でなく、一緒に統合して作っていく形にしていく事に関してはアクションリサーチにおいて先生方の意見としてどんなものが鮮明に出てくるかというところが興味深い点です。

スウェーデンの研究者である Dahlberg と Taguchi が言うように、今まで別々に考えていた伝統的な保育や学校教育のイメージを、共通のビジョンを有した学校レベル間、実践レベル間で繋がりを持っていくことがアイスランドにおいても国全体で向かう方向になります。そのため繋がり考えた時のイメージは二つの分かれたものではなく、後ろ側にあるものが繋がった一つの形として出てくるという所であると争議されています。(つづく)

(京都市・光明幼稚園副園長／田中康雄)

* * *

次回からはタンペレ大学学校教育学部副学部長・教授 Kirsti Karila 氏によるご講演の報告記事を掲載いたします。

「全日私幼連 PTAしんぶん」を ぜひ ご活用ください

調査広報委員会で編集発行している「全日私幼連 PTAしんぶん」に寄せられた保護者の皆さまからのお便りをご紹介します。

「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」として、その役割を果たしている「全日私幼連 PTAしんぶん」をぜひご活用ください。

(調査広報委員会)

★ ★ ★

様々な情報を得られるしんぶん

4月から3歳の息子が通園し始め、このPTAしんぶんが配付されるので読むようになりました。約3年間、母子でほぼ生活していたので、幼稚園の先生やお友だち等、たくさんの他人との生活に大丈夫かな、と心配しつつ、楽しそうに通う息子に心配は無用だと安心しています。子育ても今までとは違う環境や関係が必要になり、PTAしんぶんは対外的な情報を得られるので毎号興味深く読んでいます。

読み聞かせの大切さを知る

「PTAしんぶん」にはいつも子育ての勉強になることが書いてあるので、とても為になります。娘は絵本が好きなので、毎日数冊は必ず本を読みます。今回読み聞かせがいかにか子育てに重要かが、わかりました。ストーリーよりもまず、絵を見て感じとることを大切にしようと思いました。

子どもとの時間を考え直す

どの記事も2児の子育て真っ最中の私にはとて

も参考になるものばかりです。

上の子は小2、下の子は幼稚園年長になりますが、これからも慌ただしい日常の中でもスキップ、絵本の読み聞かせ、工作あそびなど、子どもとの時間を大切にしていきたいと改めて思いました。次回のしんぶんも楽しみにしています。

身近に感じられる読み物

「子どもの目～つぶやきことば～」を読むと、子どもってあんなに小さいのに色々な話を大人から吸収していて自分でもたくさんのことを考えているんだと改めて教えられます。

PTAしんぶんには園長先生のことばや、保護者の投稿等、身近に感じられる要素がありとても読みやすいと思います。子育てで忙しいとゆっくり読み物をすることもできないので、考えさせられたり心が和んだりを1枚でできるのが良いですね。次回も楽しみです。

日々子育て勉強中

毎日バタバタと育児に追われている中、悩む事も多々あり一つ一つ解決できることもなく過ごしている時、ふと手に取ったPTAしんぶんを読み、そういう時もあるんだと解決までいかずとも肩の荷がおりたり、落ち着けたりすることが出来た時もありました。日々子育て勉強中です。これからも子どもをよく観察し、人とふれあい、時には本やしんぶんから知識を得て、楽しい子育て、笑顔の子育てをしていきたいです。

5歳児における協同的学びと保育者の援助について

保育実践「いも会議」をとおして

盛岡大学文学部児童教育学科 准教授 石川 悟司

盛岡大学附属松園幼稚園

はじめに

幼稚園教育要領第1章総則第1「幼稚園教育の基本」において、幼稚園における教育は「環境」を通して行うものとする、と明記されている。これは、自らの興味関心に基づいて活動することで得た経験の中に幼児期の学びがあることを示すものであり、将来にわたる知的活動の基礎をなすものと言われている。一方で、公教育としての幼稚園教育の重要性は言われながらも、その中身は漠然としたものとして評価されがちである。

そこで、幼児期における「協同的学び」について考察を進めていくことが、育ちの連続性の中での幼稚園教育の中身を明確にしていくひとつの手段と考えた。

盛岡大学附属松園幼稚園5歳児28名と全教員とで行われた「いも会議」と、そこから派生していく様々な出来事の広がり子ども達のエピソードを捉えながら考察を進めて行くこととした。

「いも会議」とは

東北地方太平洋沖地震による東京電力福島第一原子力発電所事故で放射能が広範囲に拡散された。それにより、幼稚園で栽培していた「さつまいも」は食べられるのか、食べられないのか、という問いを大人が決めるのではなく、子ども達と共に考えていった会議である。

領域1 「いも会議」本体の広がり

エピソード1、2、3

領域2 会議の経験から派生したと思われる広がり

エピソード4、5

エピソード1「でんわできてみようか？」

「放射能」についての説明が担任教師からなされ、今栽培している「さつまいも」をどうするのかについての話題に移行していく。その中で「よく分からないから機械で調べられないか」という共通の問いが生じ、教頭が子ども達の前で店舗に問い合わせの電話をかけた。そのことで、「あの店には置いていない」という具体的な経験に基づいた共通の理解と解決を得られた。

エピソード2「そだてるの、やめる？」

教師側から2つの問いを子ども達に提示した。食べるのか食べないのか。もし食べないなら育てるのか、やめるのか。シンプルかつ直接的な問いだけに考える余地が広がった。子ども達は答えに窮し3～5分の沈黙が生じた。これは、子ども自

身が問いの難しさを引き受けたことによる考える時間・空間を意味するものと捉えられる。子ども達が「目的」と「生命」の間で揺れ動き、答えが見つからないもどかしさを感じる中、「自分たちで植えたんだから、自分たちが育てないとだめだよ」という1人のつぶやきがその場の空気を一変させた。「腑に落ちる」という感覚が共有された。子ども達が考える過程の中での「もどかしさ」と「腑に落ちる感覚」が、「学びの面白さ」に繋がる大切な要素であることが読み取れる。

エピソード3「さくらんぼ、どうなるの？」

さくらんぼは大丈夫か?という話題になり、様々な意見が出された。翌日、I児が父親に頼み自分の言葉を書いてもらった手紙を持ってくる。

「さくらんぼはおひさまのちからをかりてつちからえいようをもらっておいしくなったから、またつちにかえしてあげる。そうしたらまたらいねんおいしいみをつける。おとうとやいもうとがうまれるかも。」

手紙を静かに聞いていた子ども達だったが、C児の「さくらんぼのきのねっこにたねをうめようよ」という意見に全員の同意が得られ、数日後たね植えが行われた。

I児は積極的に自分の気持ちを言葉で伝えるような子どもではなかったが、そのI児が気持ちを文字にして表そうとする行動の背景のひとつには、いも会議で何かを得た子ども達が持ち寄りようになっていた絵等を担任教師がパネルに貼りつけ掲示するという「見える化」があると考えられる。それに触発され、これまでのいも会議を通して自分の考えたことを明確な形で伝えたいという強い思い、強い出来事がI児の中に起こっているという現れでもあるのではないだろうか。

また、C児は知識は豊富であったが、否定的な態度や具体的な動きから距離を置くような態度をとる傾向が強かった。しかし事例の中での話し合いの流れを自分なりに受けとめ、それを行動に移していく姿はこれまでのC児とは違った姿であった。

共通の関心事に突き動かされているI児と友だちの考えを自分なりに受けとめ、納得し具体的な行動に移していくC児といったいも会議の流れに巻き込まれながら新しい自分の姿を表す2つの姿を捉えることができた。

エピソード4「標識」

年中児が園内廊下の合流地点で出会い頭に衝突し負傷する出来事があった。その翌日、その場所に手

作りの「とまれ」と書かれた3本の標識が立てられていた。

園内での衝突事故という困りごとについて、その事態を共有し臨場することで具体的な動きを考えていったと思われる。「問い」へ向き合い解決し答えを自分達の生活の場にフィードバックしていく面白さを味わえたのではないか。

エピソード5「ぼくたちいなくなります宣言」

修了式前日の降園間際、年長児が年中児の部屋に出向き、次の文面を書いたカードを読み上げていた。

- 「こんどおおきくみになるさくらさんへ
- ・とんねるははしってぶつからないようにきをつけてあげてね。
 - ・いちごんぼさんにはやさしくおせわをしてね。
 - ・おへやをでるときはちゃんとでんきをけしてね。
 - ・ばすのひとはちいさいおともだちとてをつないでつれて行ってあげてね。
 - ・もしじしんやこまったことがあったら、みんなではなしあいをしてね。
 - ・だれかがこまっていたらたすけてあげてね。

このカードの内容はいも会議後の活動の広がり（領域2）が殆どである。子ども達の中に自分たちのやってきたことが意味のあることだったという自負と、人の事を自分の事として捉える事の大切さを子ども達自身が自分達の言葉を使って表したものであるのではないか。みんなで考え、様々な事にかかわり動かしてきた事を来年大きい組になる人達へとつないでいこうとするひとつの育ちの姿を見せてくれている。

考察

(1) 領域1と2のつながりの意味

「放射能と作物」は5歳児にとっては難しいテーマであったにもかかわらず約半年間も話し合いが継続された背景の一つには援助する側の教師の視点が、子どもの生活する姿に大きくスライドしたことがあげられる。そのことが「話し合いの結果を出来るだけ直近で反映させていくこと」「子どもに考えやすい問い立て」「まきこみ」といった教師の援助につながっていった。そして子ども達は事態の変化を実感していくことになる。

自分達の話し合いや具体的行動が、周囲を変化させていく実感こそに、協同的学びの初発があり、さらにその学びは周囲への積極的関与（領域2）を生み出していくのではないかと考えた。

(2) 協同的学びを支える集団と個について

右の写真（図1）は地震発生の6ヵ月後に描いたN児（年長）の絵である。「支えあう」とはどういうことなのかをN児なりに考え自分なりの解決として絵として表している。この姿は、問いを持ち、周囲

から情報を得、考えたことをその子どもなりの形で表していく「いも会議」の流れと重なってくる。

N児の姿は、協同的学びの場面であったとしても、それぞれの子どものなりに自分の気持ちへの「落とし込み」や感じ取る切り口・タイミングがあり、集団の中での出来事が、一旦それぞれの子ども（個）の中で咀嚼されることが必要であることが示されている。すなわち協同的学びの軸にあるものは「個」の育ちであると言える。



図1 年長組女児「ささえあうとわ」

(3) 協同的学びを支える教師の援助

学びあいの行われる状況作りが教師の援助として大切であることがわかった。しかしその状況作りは、子ども達各々の育ちが下支えとなる。安心感に支えられた自己発揮の中で様々な事を経験として溜め込み、それが共同的な学びを可能にしていくのである。この事を前提とし、各エピソード・考察を踏まえ「状況作りの背景にある援助」を次のように考えた。

1 教材として

- ・シンプルであること（子どもの興味・理解）
- ・生活の中にあること（生活へそわせていく）
- ・教師の感性（環境・状況を作り出す）

2 つなぐ

- ・問いをつなぐ
（問いは新しい問いを生み出し流れを作る）
- ・面白さをつなぐ
（考える面白さは学びの面白さへつながる）
- ・生活へつなぐ
（生活はそれらを発揮する場である）

まとめ

幼稚園教育における協同的学びとは、その根幹には「子ども自身の生活」「子ども自身の動き出し」というものがあり、そこから出発するものである。幼稚園教育そのものが、結果として協同的学びに繋がっていくものであり、それが幼稚園教育の本質を意味するものではないかと考えた。

テーマ：保幼一貫教育 1歳からの幼児教育
～質の高い理想の幼児教育を目指して～

丸山利夫（三葉幼稚園）

菅田栄子（松山東雲短期大学）

I、はじめに

本園は今年、創立43年を迎えた。一人一人の個性を大切にしたいという思いから、正しい生活態度、考えたり工夫したりする学習の芽を育てている。また、幼児の発達や発育に考慮しながら、薄着、裸足で生活し健康なからだの育成を図っている。27年前から遊び中心にした環境による教育に変え、「人間関係や創造性、豊かな感性を育む」という教育理念の元、廃材遊び、包丁を使ったままごと、木工、泥砂遊びなど、幼児自らかかわって様々な体験ができる環境づくりをしている。幼児達は、午前中たっぷりと繰り返し試したり考えたりして遊び、教師や友達とかかわり、仲間として学びの場を共有している。本園所有の農園で季節ごとの野菜を収穫し、園内で調理して給食として出すことで食への関心を高めるなど、食育にも力を入れている。又、平成22年12月に1・2歳の幼児を対象にした「みつばようちえん地域保育所ぴよぴよ」を設立し、平成26年3月に認証保育所の指定を受けた。施設・行事・遊びの環境を幼稚園と共有し、幼稚園入園へのスムーズな移行を図っている。



II、テーマの設定理由

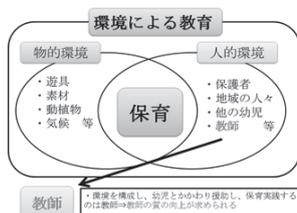
「質の高い理想の幼児教育」とは何かと考えた時、幼児達が伸び伸びと生活する中で、主体的に生活を創造し、試し工夫し助け合いながら遊び、学ぶ保育ではないかと考えた。又、幼児にとって豊かな環境を用意し、保育を実践する教師の質の向上は必要不可欠であると考えている。環境による教育からの幼児の育ちを探り、充実した環境を作り実践する教師の質の向上を目標に研究を進めたい。また、1・2歳児の発達の姿を理解し、幼稚園児と遊びや環境を共有する中で1・2歳児の育ちを探り、1歳児から一貫した教育環境の中で生活する利点を明らかにしたい。

III、【研究方法】

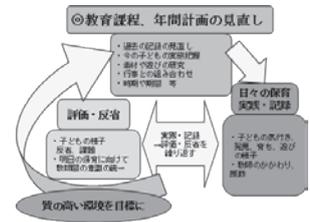
- ① 環境による教育の重要性について考える。
- ② 幼稚園児と1・2歳児のかかわりから1・2歳児の育ちを探る。
- ③ 環境による教育からの3・4・5歳児の育ちを探る。
- ④ 幼稚園児と1・2歳児が共に生活する充実した環境作り

① 環境による教育の重要性について考える。

「新幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」でも、環境による教育が重要であることが記されている。自園の環境による教育の考え方と保育計画の流れについて説明したい。環境を大きく捉えると遊具、素材、動植物、気候などの物的環境。保護者、地域の人々、他の幼児、教師などの人的環境がある。それらが重なり合いながら、教師の意図や援助、配慮などをもって、働きかけ



ていくものを保育と捉える。そして、幼児を取り巻く全てのものから影響を受け、学んだり身に付けたりしていくものを環境による教育と考えている。保育を実践する教師は環境を構成する立場であり質の向上が重要であると考えている。次に、保育計画の流れを説明したい。保育を実践し子どもの気づきや育ち、遊びの様子を記録する。そして、教師は反省、評価や意識の統一を図る過程を繰り返して行き、教育課程、年間計画の見直しへとつないでいく。

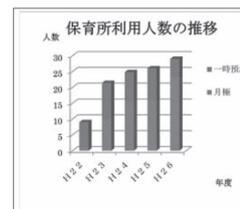


② 幼稚園児と1・2歳児のかかわりから1・2歳児の育ちを探る。

保育所の設立当初から、保育課程の中に教育と養護の目標を取り入れ、幼稚園の満3歳児保育へのつながりを意識して作成している。また、基本的には1・2歳児は3歳の誕生日を迎えると幼稚園の満3歳児クラスに入園する流れになっている。

【設立当初の取り組み】

保育所設立当初の保育士の日記に「お楽しみ会に参加させて頂く。」という表現があった。設立当初、外部からの保育士を配置しており、保育士の気持ちとして幼稚園との壁を感じていたことが伺える。そこで、2年目より本園の幼稚園教諭を主任1名、保育士1名を配置換えし、現在に至っている。下図の保育所の利用人数の推移のグラフに表記している人数は、年間を通しての平均の利用人数である。平成22年は、月極、一時預かりを合わせて10名弱だったが、平成26年には30名弱の幼児が利用するようになった。このデータから、年を重ねるごとに幼稚園の中にある保育所として周知され、月極の人数が増えてきたと考えられる。9月からは、定員を30名に増員して幼児を受け入れている。



1歳児「ブロック遊びを通して」

1歳児のA児・B児は、小さい四角いブロックや長方形のブロックを一つ一つ積み重ねていた。最初は、2~3個積んで満足していたが、2歳児達がたくさん積み重ねて高くしているのを見て、保育士が「このブロックもくっつけてみる？」と声を掛けると、真似て高く積み上げていた。

【満3歳児の場の共有】

2歳児 「周りの大人や幼児にも親しみをもって真似たりかかわったりして遊ぶ」

①幼稚園の満3歳児の部屋に行くと、早速机の上にあった粘土を見つけて、A児が「先生、これしていい？」と聞き、粘土で遊び始めた。すると、他の幼児達も次々と椅子に座って、粘土で遊び始めた。A児は細かくちぎった粘土を1つにまとめて何本も細長く伸ばすと、皿の中に入れて「うどんができたよ！」と小さな料理人になりきって楽しんでた。C児は満3歳児に教えてもらいながら粘土を平らにし、型抜きで型を抜いて、車や動物、様々な型を使ってクッキーのようにして楽しんでた。一人ひとりが周りを気にすることなく粘土を伸ばしたり、ちぎったり、くっつけたりと思いのままに1時間程、集中して遊び込んでいた。



②7月初旬、満3歳児のクラスへ2歳児が遊びに来た。満3歳児のA児がクラスで飼育しているかたつむりの絵を描いているのを見た2歳児のB児、C児、D児が次々とかたつむりを描き始めた。すると、満3歳児のF児が飼育しているかたつむりを持って来て、「かたつむりおるよ。」とテーブルの真ん中に置くと、2歳児のG児が「でんでんむしむし〜♪」と歌いながら絵を描き始めた。次々と保育園児も満3歳児も歌い始め、いつの間にか部屋の中は「かたつむり」の大合唱となった。

③ 環境による教育からの3・4・5歳児の育ちを探る。

3歳児 「身近な環境にかかわって楽しく遊ぶ」

入園当初は、浸し染めのコーナーでキッチンペーパーを絵の具で染めて楽しんでた子ども達は、何度も繰り返して遊んでいくことで、色が混ざって違う色ができることに気付き、更に「やってみよう」という気持ちが高まってきた。そこで、こいのぼりの形にしたキッチンペーパーを染めて、年少児でも簡単にこいのぼりができるように準備すると、興味を持った子ども達が「やりたい！」と言って、たくさんこいのぼりが出来上がった。A児は、こいのぼりのしっぽのV部分を縦半分に折って染めると、「あっ！新幹線の形になった！のぞみかなあ？」と言って持って来て教師に飾ってもらった。

4歳児 「進級するという自覚をもって行動し、遊びの展開を楽しむ」

○「ダンボールの街作り」

2学期初めにDVD視聴をしたところ、子ども達から「ダンボールで迷路を作りたい。」という意見が出てきた。A児が「ダンボールの街を作りたい。」と言い、それを聞いたB児が「道路も作ろう。」と提案した。次の日、年中5クラスで園の周辺を散歩した。子ども達は、散歩で色々なことに気付いたり、発見したりしていた。散歩で気付いたことを言い合いながら家や道路を作り、迷路作りが街作りへと変わっていった。しかし、ある時期から遊びが低迷し始めた。教師は家が全部外側に向いていることに気付き、家を内向きにするように声を掛けた。家の向きを変えると、子ども達は気に入った家に入って遊び始めた。S児は「8人家族になったよ。」と言って、みんなの名前を紙に書いて表札にしていた。それを見た他の子ども達も表札作りをしたり、ドアやテーブルを作ったりしていた。友達と考えを出し合い、カーテンやお風呂なども次々とできてきた。ダンボールの街作りは1週間ほど続き、生活に必要なものができていった。その活動は隣のクラスにまで広がり、年中5クラスの子ども達が刺激し合っ

5歳児 「就学に向けての5歳児の生活」

手作り給食で使うそばの皮むきをした。そこに、様子を見に来た副園長が、近くにいたM児とH児に「どうしてそばをむいていうか知ってる？」と聞くとM児が「空に向かって伸びるから。」と答えた。後日、それが本当かどうか近隣の畑に確かめに行った。すると、小さくて茎の若いそば豆は上を向いていたが、大きく実ったものや実の根元が黒くなったものは横や下を向いていた。こうした活動を経て、副園長に『そば豆の旅』の素話をしてもらった子ども達は、イメージを次から次と膨らませ、紙芝居作りへと発展させていった。6月上旬、紙芝居を老人施設や異年齢児の前で発表した年長児は、副園長の提案から歌作りを始めた。歌詞は、そばの収穫から今までの経験を踏まえて、自分達で作って、曲は副園長がつけた。そして、そばまめ音頭になり、夕涼み会で踊った。



④幼稚園と1・2歳児が共に生活する充実した環境作り

保育所ができて2年目、幼稚園の保護者アンケートの中で「保育園児が幼稚園と一緒に園庭で遊ぶのは危険ではないか」という声が聞かれた。そこで、「幼稚園児が遊んでいる時間帯を避けて園庭に出てもらうこと」また、「一緒に遊んでいる場合は柵を持って来て、囲いの中で遊んでもらうこと」等、危険が及ばないように対策を考えた。2週間ほどして、気が付くと幼稚園児の方から保育園児に声を掛け、自然な形でかかわっている姿が見られていた。そこで、思い切って柵を取り払ってみると、幼稚園児達はその場その場で危険が及ばないように気を付けて行動したり、保育園児に言葉を掛けたりして遊んでいた。遊ぶ際は保育士と幼稚園教諭も傍についていることが条件である。但し、幼稚園の年長・年中児がダイナミックな活動をしている時や幼稚園児の遊びが活発になっている時は、保育園児の外遊びの時間を調整することにした。現在では自然な形で幼稚園児と保育園児がかかわっている。

IV、【まとめと今後の課題】

設立当初から保育課程の中に教育の目標を取り入れてきたことで、保育園児が幼稚園児の影響を受けながら生活することができ、遊びを深め、人とのかかわりを充実させることができたように思う。こうした環境で育った幼児達が毎年幼稚園に入園し、保育園児とかかわる中で、思いやりや人の気持ちを考える心が育ってきていると感じる。そして、心と体が育った子どもが年長児になった時、意見を出し合ったり助け合ったりしながら充実した協同的な遊びに取り組むようになる。本園では、1・2歳児の存在は今や幼稚園児の意識、心の育ちに欠かせない環境である。1・2歳～5歳までの一貫した環境による教育、遊び＝学びの積み重ねが小学校就学に向けて自信となり、少々の困難も乗り越えて生活していく力となると考える。しかし、将来、認定こども園になるにあたっては、0歳児の受け入れも視野に入れておかなければならない。また、月極の1歳児の割合が増えていることなど、課題は増えていく。今後も保育内容の充実や教師の質の向上は課題である。三葉幼稚園の教育には1歳児の存在が欠かせないものとして、今後も理想の幼児教育、保育を目指していきたい。

日々の保育、どのようにして保護者と共有していますか。

～ホームページを活用した保育実践の発信・共有～

亀ヶ谷元讓（宮前幼稚園） 外池絵里（宮前幼稚園）

● はじめに

近年、「共育」という言葉の重要性が唱われている。この「共育」の中には、子どもはもちろん、子どもとともに、保育者や保護者が育み合う関係性の大切さが込められている。秋田喜代美は著書の中で、子どもとともに親も育つ、親育ちの重要性について「園全体で遊びの過程や子どもが育つために必要な経験について伝えていく試みは積極的にさまざまな形で行われることが必要」と、述べられている。

そこで、本園では日々の保育の営みを保護者に伝え、子どもの育ちを共有する方法としてホームページを活用している。あそびの中でのエピソードや子ども同士のかかわりについて、保育者の思いや考察を綴った保育記録とともに、毎日100枚以上の写真をホームページ上にあげている。

今回の研究では、保護者へのアンケートを実施し、ホームページが保育実践の理解・共有にどのような効果をもたらしているか明らかにしていく。

● 方法

本年に在籍している全490家庭にアンケートを配布した。また、父親と母親では閲覧環境や閲覧目的が異なるであろう点も加味し、父親・母親用アンケートを作成し、それぞれに回答してもらった。なお、質問項目は同一とした。

主な質問項目として、閲覧頻度や閲覧方法などから、ホームページを見ることで保育に対する理解は深まっているか。などについて尋ねた。また、ホームページの写真や保育記録をきっかけに親子でどのような会話が生まれたか具体的に記述してもらった。

● 結果

アンケートの回収率は約50%であった。

主なアンケート結果は以下の通りである。

・閲覧頻度

母・・・70%

父・・・41%

が週3回以上閲覧していると回答。

・保育に対する理解は深まりましたか。

母・・・92%

父・・・71%

が【大変そう思う／そう思う】と回答。

・お子さんと話すきっかけになっていますか。

母・・・77%

父・・・77%

が【大変そう思う／そう思う】と回答。

また、ホームページがきっかけとなりご家庭で生まれた会話の具体的なエピソードについては、

当日や翌日など、保育中にあったことを話してくれるが、今ひとつ伝わらなかった時、写真を見て、「この時のことだったのか」と分かり、子どもに「あのとき話していたのはこの時のことだったんだね、本当だね！」などとしっかり受け取り、返すことができました。(年中・母)

など、写真があることにより、子どももその時の状況を思い出し、自分の言葉で話し、保護者にとっても具体的にその場の情景を思い描くことができていた。

● まとめ

今回、ホームページを活用した保育実践の発信・共有というテーマで研究、ポスター発表を行い、日々の保育写真や保育者の思いを綴った保育記録が、保護者に伝わり、8割以上の方から「保育についての理解が深まった」と回答を得たことに、保育理解を深めるためにもホームページの有用性が高いことが示された。

また、保育者にとっても、保育記録をオープンにすることで、保育記録のエピソードをきっかけに保護者の方と話し、その時にどのような思いでかかわっていたか知ってもらうことに繋がり、保育者と保護者の信頼関係を構築するための大きな力になっているのではないかと感じた。

今後も、日々の保育の営みを大切にしながらその中での子どもの気付き、発見、学びを捉えながら、育ちの共有ができるようにホームページの活用方法を考えていきたい。

【参考文献】

秋田喜代美：『ほいくの心もち』

ひかりのくに

園児の食生活の基礎づくりを目指した『よかねえ〜プロジェクト!!!』

一食べ物と関わること、人と関わること、感謝の気持ちを持つことを通して一

○高田理恵（中村学園大学付属あさひ幼稚園管理栄養士）・中村麻衣（中村学園大学付属あさひ幼稚園教諭）

1. 問題の所在と研究の目的

子どもたちは日々、様々な経験・体験を積み重ねながら成長している。その行動の原点、そして原動力には『健康な体』が必要不可欠であり、そのために幼児期のうちに望ましい食生活の基礎を作ることが重要である。

平成17年に制定された食育基本法にもある『「食」に関する知識と「食」を選択する力を身につけ、食生活の基礎づくりをする』ため、本園では食育活動の一環として、管理栄養士が中心となり、月1回保育者と一緒に栄養学の観点から子どもたちにアプローチをする活動である『よかねえ〜プロジェクト』を行っている。また、園内研修の機会を活用しながら、管理栄養士・調理員・保育者間のコミュニケーションの活性化を図り、協同・協調的に食育活動の内容を計画、実践している。

本研究は、子どもたちがよりよい食生活を身につけるための食育活動の体系化と幼稚園職員－保護者間での共有を最大の目的としている。このプロジェクトへの取り組みが今年で3年目となり、少しずつ活動の基盤ができてきたことから、今回の報告では、この食育活動の振り返りとして、保育者と保護者へアンケート調査を行い、子どもの姿の実態やこれまでの変容を明らかにする。

その上で、今後のよりよい食育活動の在り方を問うことを目的としている。

2. 方法

調査対象…本園の保育者（補助教諭を含む）と保護者

調査期間…平成26年7月9日～7月16日

回答数…保育者12名（回収率100%）

保護者115名（回収率68.4%）

本報告では、日常の食生活への理解と意識についての項目と、そして園での取り組みである『よかねえ〜プロジェクト』に関する項目を設定したアンケートを作成し、自己評価と他者評価（子ど

もについて）の回答を求めた。

3. 結果と考察

回答結果より、食育活動の開始時（3年前）から現在に至るまでに、子どもや保護者の食に対する意識が高まってきたこと、また『よかねえ〜プロジェクト』への関心の向上が明らかになった。管理栄養士や保育者が共に試行錯誤し、子どもたちが自分で育てた野菜を調理したり、給食ができるまでの過程を見ることができる環境の設定をし



たりと、様々なアプローチを重ねてきた結果だと思われる。

しかし、その一方でアンケート項目の内容「食事をよく噛んで食べることができる」については、『よかねえ〜プロジェクト』で取り上げたにも関わらず保育者と保護者、そして双方から見た子どもの意識において、全て評価が低かった。また他の項目においても、保育者と保護者の意識が低いものに関しては子どもの評価も低くなっていると考えられる。

アンケートの「食事をよく噛んで食べることができる」と「好き嫌いせず、何でも食べることができる」「身近な動植物に関心を持ち、世話をすることができる」の3項目に関しては、保育者と保護者どちらも、その重要性としては感じているものの、それが様々な背景によって習慣化まで繋がっていない部分があるということが考えられる。

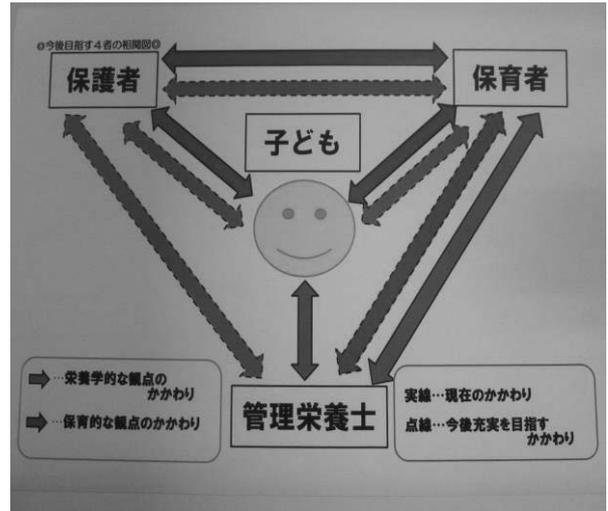
4. 今後の課題とまとめ

今回の調査により、今後より効果的な食育活動による食生活の基礎づくりをするにあたり、子どもの姿の変容を促すためには、保育者と保護者の

意識の共有、そして園と家庭での食育活動を土台とした取り組みが必要となる。

しかし、保育者と保護者の意識を高めるには、栄養学という専門の知識を持った管理栄養士という存在が重要な支えとなる。今後も園内研修を通して保育者の「食」に関する知識を高め、管理栄養士と保育者の双方から保護者に必要性を発信していくことが大切だと考える。

そのためにも、管理栄養士と保育者が連携し、管理栄養士は栄養学の観点から、保育者は保育の観点から子どもの育ちを考え、活動の内容の再考とそれを家庭でも振り返ることができるような保護者へのアプローチが課題であるといえる。



地震対策は お済みですか？

耐震補強実績
木造 1,800棟
非木造 3,500棟
達成

補助金が利用できます！

私立幼稚園施設整備費補助金(文部科学省)申請により、要件を満たす建物の耐震工事についての補助金

補助額 全体費用(設計+工事)の

最大50%

耐震補強の専門スタッフが疑問にお応えします。

- 園児を地震から守るために!
- 園児の保護者が安心できるように!
- 建て替えまでの応急処置に!

外付け施工なので工事中も普段通りに使用可能

通風・採光・出入りも今まで通り

公的機関の技術評価取得

補助金対象工法



木造幼稚園



鉄筋コンクリート造 幼稚園

お問い合わせ、資料請求は



0120-260-220

〈受付時間〉
9:00~17:00

ウッドピタ

検索

株式会社ピタコラム

ウッドピタ事業本部

(株)ピタコラムは矢作建設工業(株)(東証一部上場)の100%子会社です。

私学事業団からのお知らせ

健康診断の結果の提出をお願いします

今年度の特定健康診査等のご案内は、6月下旬に送付しました。事業団では健康診断の結果により、個別の健康情報誌「QUPiO (クピオ)」を送付します。また、生活習慣病のリスクのある方には、生活習慣改善応援プログラムとして「特定保健指導の利用券(費用無料)」を送付します。皆様の健康を守るためにも、ぜひ健康診断の結果の提出にご協力をお願いします。

健診結果の
第1回提出期限は、
9月30日です。

健康診断を
受けました!!



幼稚園で実施した健康診断の結果(加入者分*)を事業団に提出してください。



冊子「QUPiO (クピオ)」であなたの結果内容に合った健康情報をアドバイス

* 事業団への結果の提出は加入者分のみです。
被扶養者分は、受診した医療機関から事業団へ報告されます。

相談料無料

メンタルヘルス等相談サービス

私学事業団健康相談ダイヤル

24時間
年中無休

心と体のさまざまなご相談に医師・保健師・助産師・看護師などが24時間体制でお応えします。

対象者：加入者(任意継続加入者を含む)とそのご家族及び75歳以上の教職員

健康相談

体の不調や健康保持・増進に関する相談

メンタルヘルス相談

ストレスや不安などの悩み

医療相談

病気・治療・検査等に関する相談

育児・介護相談

妊娠・出産・育児・介護に関する相談

24時間 悩みいらず
 **0120-24-7831**

WebカウンセリングURL

<https://t-pec.jp/websoudan/>

ユーザー名：shigaku

パスワード：247831

電話・面談・Webによるメンタルヘルスカウンセリングも行っています(面談は、年度内5回まで無料)。プライバシー保護を厳守しておりますので、安心してご利用ください。

詳しくは、私学共済ホームページ(福祉事業のご案内▶健康管理に役立つ)をご参照いただくか、または福祉部保健課へお問い合わせください。

日本私立学校振興・共済事業団

福祉部 保健課 健康管理係・保健係

〒113-8441 東京都文京区湯島1-7-5

電話 03 (3813) 5321 (代表)

FAX 03 (3812) 8775

◆経済財政運営と改革の基本方針2015

「幼児教育の無償化」が「骨太の方針2015」の “教育再生”項目の先頭に盛り込まれる 子ども・子育て支援新制度を着実に実施

政府は、6月30日、経済財政運営と改革の基本方針2015（骨太の方針）」を閣議決定しました。「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」の内容は、次のとおりです。

第2章 経済の好循環の拡大と中長期の発展に向けた重点課題

2. 女性の活躍、教育再生をはじめとする多様な人材力の発揮

[2]結婚・出産・子育て支援等

「子ども・子育て支援新制度」を着実に実施し、本制度に基づく幼児教育・保育・子育て支援の「量的拡充」及び「質の向上」に消費税増収分を優先的に充てる。また、更なる「質の向上」を図るため、消費税分以外も含め適切に確保していく。「待機児童解消加速化プラン」、「放課後子ども総合プラン」等も確実に推進する。

[3]教育再生と文化芸術・スポーツの振興

（教育再生）

幼児教育は人格形成の基礎を培うものであり、重要な政策課題として総合的にその振興に取り組む。家庭の教育費負担軽減の観点から、「少子化社会対策大綱」等も踏まえ、幼児教育の無償化に向けた取組を財源を確保しながら段階的に進めるとともに、無利子奨学金の充実や授業料等負担の軽減に取り組む。

内閣府ホームページ 経済財政運営と改革の基本方針2015

<http://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/cabinet/2015/decision0630.html>

[今号は1枚]

子育てフォーラムの今昔

平成6年度を初年度にして取り組んできた子育てフォーラム。はや20年が経過しました。例年、新年度が始まり新入園児も少し落ち着いてくる6月から始まり、年内12月までの間に県下27会場で開催、参加延べ人数は約1万人に上ります。

当時、少子化や核家族化等による子育て環境の変化から、家庭の教育力の低下や子育て支援が叫ばれるようになり、県当局の財政的支援を頂きながら、教育相談、子育てジャーナルの発行事業と併せて県下各地で子育てフォーラムを開催し、家庭教育の大切さ・幼児教育の重要性などの啓蒙に資してきました。実施にあたっては、連合会の役員はじめ各地区会の加盟園の先生方はもとより、それぞれのPTA組織の皆様のご理解とご協力が不可欠ですが、このフォーラムの実施がそれぞれの組織を強くし、連携を確かなものにしていった一面もあるように思われます。20年間、綿々と続けられてきた子育てフォーラム。時代の流れの中で、その内容にも変化が認められます。当初、家庭教育の在り方などの専門性の高い先生方を中心とした「親の学習の場」・情報発信型のフォーラムでしたが、今日的には歌あり、音楽あり、笑いあり（落語）と趣向を凝らし、日頃の子育ての疲れを癒し、悩んでいるのは自分ひとりではないという安心感が得られるような、心を耕し、心が豊かになるような、そんな場になるような内容を中心とした開催となっています。

「子育てはたいへん！」と言われ、少子化が止まらない昨今。家族の絆の大切さ、家庭教育の大切さとともに、子育ての喜びや楽しさをより多くの人と共有する、発信する、今後ともそんな子育てフォーラムでありたいと考えています。（(公社)全埼玉私立幼稚園連合会幼児教育センター）

園内研修・ 公開保育の変容

岡山県私立幼稚園連盟では、50年にわたり毎年、公開保育研究会を開催しています。私の記憶の中では、公開保育といえば見せる保育（環境を整え、教育課程や指導案が分厚く資料に載っている）そういうイメージでした。

しかし、平成26年度に全日本私立幼稚園幼児教育研究機構で行われている「公開保育コーディネーター養成講座」に参加させて頂き、園内研修及び公開保育のあり方が、幼児教育に対する制度の変容と共に変わりつつあることを勉強させて頂きました。環境や内容を吟味することはもちろん大切なことですが、なぜ園内研修が必要なのか、公開保育をする意義はどこにあるのかを踏まえ、評価者や参加者の外部の視点を導入することにより、園の良さや課題を見つけていくが必要になってきます。

岡山県では一昨年より、公開保育後は講師の講演・指導のみではなく、公開保育への参加者から付箋による意見や感想を出して頂き、参加者の協議の場を設けるようにしています。

参加者もまだまだ不慣れでどのように意見を出せば良いのか困惑していますが、毎年続けることにより研修の内容が充実し、教師の資質向上と、岡山県の幼稚園教育が益々発展し、ひいては、「子どもがまんなか」の保育が充実することを目指しています。

（岡山県私立幼稚園連盟常任理事、倉敷市・敬愛幼稚園／永宗智子）

平成 27 年度
「家族の日」「家族の週間」

内閣府では、子育てを社会全体で支える社会の実現に向けて、家族や地域の大切さについて、理解を深めることを目的に、「家族の日」「家族の週間」を定めて普及啓発に取り組んでいます。平成 27 年度の予定は次のとおりです。

また、「家族や地域の大切さに関する作品コンクール」（応募は小学生以上）も実施されます。詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。

<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/family/index.html>

- 家族の日：平成 27 年 11 月 15 日（日）
- 家族の週間：平成 27 年 11 月 8 日～ 21 日

編集後記

数年前より中学生が家庭科の授業で「幼児とふれ合う」を目的に来園する。中学には 1 学年 5 クラスある。

5 日間に分けて来園するため私たちは特別なことはせず普段の保育に 1 時間だけ中学生が交わる形をとった。

第 31 回
全日本私立幼稚園連合会
設置者・園長全国研修大会

10 月 26 日（月）・27 日（火）

会場：岩手県盛岡市・ホテルメトロポリタン
盛岡 ニューウイング

開催要項は各都道府県私立幼稚園団体事務局を通じて配布いたします。

つまり、担当するクラスや日にちにより経験する内容が違うのだ。しかし来たときの顔と帰る時の顔はみんな同じ変化を見せる。

もちろん引率の先生の顔も…改めて幸せな仕事なのだ実感するのである。

（調査広報委員会編集委員・光安則子）



優れた芸術家の作品を、
子どもたちの生活環境へ。
見て、触れて、感じながら、
子どもたちの心は、
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 ジャクエツ
www.jakuetsu.co.jp

平成 27 年度 (第 6 回) 免許状更新講習の認定一覧

●選択領域「教科指導、生徒指導その他教育の充実に関する事項」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
北海道 幕別町	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広く深める」の2つの事項について理解と実践をふり返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	吉田 耕一郎(北翔大学非常勤講師,北見北光幼稚園理事長)	6時間	平成27年10月3日	50人	平27-81340-57644号
北海道 旭川市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広く深める」の2つの事項について理解と実践をふり返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	山田克巳(拓殖大学北海道短期大学保育学科教授)	6時間	平成27年10月10日	50人	平27-81340-57645号
北海道 室蘭市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広く深める」の2つの事項について理解と実践をふり返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	高山晃作(北海道福祉教育専門学校こども未来学科教諭)	6時間	平成27年10月10日	50人	平27-81340-57646号
北海道 札幌市	「保育現場での質を高める」、「幼稚園の役割を広く深める」の2つの事項について理解と実践をふり返り、応用力をつけ保育現場における現代的な課題に関する知識と理解を得ることを目指す。また、幼稚園教諭免許状の更新者に焦点を当てた内容としている。	芝木 捷子(札幌国際大学短期大学部非常勤講師,なかのしま幼稚園理事長)	6時間	平成27年11月6日	150人	平27-81340-57647号
東京都 千代田区	【幼児理解に基づく保育のデザイン】 幼児理解とは、幼児一人ひとりにとって育ちにつながる経験の意味を理解することである。そのような幼児理解に基づく保育のデザインについて考えてみたい。【安心とつながりを生み出す保護者支援の在り方】 子育てに不安を抱えていたり、人と関わることが苦手だと感じている保護者が増加している。幼稚園の中での様々な取り組みを検討し、保護者支援の在り方や、情報の発信とその効果について学ぶ。	戸田 雅美(東京家政大学准教授), 永井 由利子(東京成徳大学教授)	6時間	平成27年11月14日	200人	平27-81340-57651号
神奈川県 相模原市	クレヨン・クレパス・コンテパステルなどを使った遊び、粘土遊び(土粘土、油粘土、紙粘土)のワークショップを通して、造形表現を見つめなおす。	大石洋次郎(和泉短期大学非常勤講師)	6時間	平成27年8月3日	120人	平27-81340-57643号
神奈川県 小田原市	①絵本の特質について、文や絵の機能、画面展開の技法を手掛かりに、演習を交えながら理解する。また、絵本をめぐる近年の動向についても確認する。 ②私たちは小さな消費者である子どもたちに持続可能な生き方についての学びを始めなければならない。つまりは持続可能性のための幼児教育の必要と考える。この講習では持続可能性のための幼児教育とは何か学んでいく。	馬見塚昭久(小田原短期大学保育学科講師), 野津直樹(小田原短期大学保育学科講師)	6時間	平成27年10月24日	200人	平27-81340-57648号
神奈川県 小田原市	①園には子どもの数だけ保護者とのかかわりが存在し、幼稚園教育要領にも家庭との連携の重要性が挙げられる。本講習では、ニーズが多様化し保育が多角化する中での保育者の役割を整理し、保護者支援の先を考える。 ②児童虐待、DV、子どもの貧困、ひとり親家庭など、子どもを取り巻く家庭環境から来る様々な福祉課題を紹介し、児童家庭福祉の視点から幼児教育・保育の場面でどのような対応が必要かを考える。	菊地篤子(小田原短期大学保育学科准教授), 上野文枝(小田原短期大学保育学科講師)	6時間	平成27年10月25日	200人	平27-81340-57649号
神奈川県 小田原市	①本講習では、幼児から中学生までの音楽的活動を見つめ、幼児の音楽的表現活動を見据えた教材選択、製作、展開、指導について考える。また、教材研究に必要な音楽の要素に関する知識を確認し、技術の実践を行う。 ②就学前の教育と小学校以降の教育の学び方の違いを意味あることと捉え、幼稚園教育で培う生きる力の基礎がその後の学びを支えるという基本に立ち、生活と遊びを通して学習のレディネスを育むことについて考える。	望月たけ美(小田原短期大学保育学科講師), 宮川萬寿美(小田原女子短期大学保育学科准教授)	6時間	平成27年11月7日	200人	平27-81340-57650号



バス専用機不要！
スマホで簡単バス運行管理！

くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

いつもNAVI

「いつもNAVI 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社センリンデータコムの登録商標です。

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

 **株式会社チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>